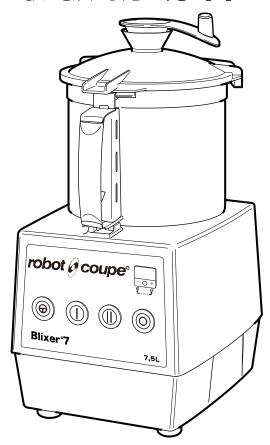


ブリクサー 【ロボクープ】 BLIXER-7(業務用)



取扱説明書



このたびは、当社のロボクープ ブリクサー(BLIXER-7)をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

この商品を安全に正しくご使用いただくために、お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつも大切に保管し、必要なときにお読みください。

もくじ

安全上のご注意	1~8
各部の名称	9
据付けについて	10•11
操作手順基本的な操作手順タイマー機能を使って、設定した時間調理をおこなう操作方法	12~20
容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssyの分解と組立て方法 . 容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssyの分解方法 容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssyの組立て方法	29 • 30
オプション部品	33 33 33 34~37 34•35
お手入れ 容器、容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssy、カッターの洗浄 オプションのカッターAssyの洗浄	39~42
故障の診断と手当 故障かなと思ったらタイマー表示ディスプレイのエラーコードについて	45~48
年に 1 ~2回の点検	52
保証書(別添付)について/消耗部品/補修用性能部品の保有期間	53

安全上のご注意

で使用になる前に、この「安全上ので注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください

表示と意味は次のようになっています。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定 される内容を示します。
<u> </u>	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害*の発生 が想定される内容を示します。

^{*}物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

感電注意	△は、注意(警告を含む)を示します。 具体的な注意内容は、△の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「感電注意」を示します。
接触禁止	◇は、禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、 ◇の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「直接手を触れないこと」を示します。
プラグを抜く	●は、行動の命令(強制)を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜く」を示します。



据付けは、お買い上げ店または専門業者に依頼すること

ご自分で据付けをされ不備があると、漏電、ショート、感電、火災の原因になります。



アース線を必ず接続すること



アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。 アースが不完全な場合は、感電の原因になります。 設備側にアース端子がない場合、電気工事士によるD種接地工事が必要ですので、電 気工事店に依頼してください。



本機の電源は、専用の漏電遮断器付サーキットブレーカーもしくは、それと同等の設 備に直接接続すること

電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、およびタコ足配線をした場合に は、感電や発熱、火災の原因になります。



電気工事は、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」に従って施工し、必ず専 用回路を使用すること

電源回路不良、容量不足や施工不備があると、漏電、ショート、感電、火災の原因に なります。



屋外で使用しないこと

雨水のかかる場所で使用されますと、漏電、ショート、感電の原因になります。



湿気の多い所や、水などがかかり易い、または流れてくるところに据え付けないこと

本体や電源コードに水がかかりますと、絶縁低下から漏電、ショート、感電の原因に なります。



据え付ける場所が、水などで濡れていないことを確認すること

モーターが高速回転したとき、本体の底部から吸い上げ、モーターの絶縁不良と回転 不良の原因になります。また、漏電、ショート、感電の原因になります。



本体に直接水をかけないこと

漏電、ショート、感電の原因になります。



電源コードを傷つけないこと

加工したり、引っ張ったり、たばねたり、また重いものを乗せたり、挟み込んだりす ると、電源コードが破損し、感電、ショート、火災の原因になります。



電源コードや電源プラグ(電源プラグ使用の場合)が破損している場合は使用しない

そのまま使われますと、ショート、感電、火災の原因になります。



電源プラグを使用している場合は、電源プラグの刃および刃の取付面にほこりが付着 していないか定期的に電源プラグを抜いて確認し、刃の根元まで確実に差し込むこと

点検清掃

ほこりが付着した場合や、接続が不完全な場合は、感電、火災の原因になります。



漏電遮断器または、サーキットブレーカーが『OFF(切)』に作動した場合には、お買上げ店に連絡すること

無理にレバーを『ON(入)』にすると、ショート、感電、火災の原因になります。



機械内部の電気装置や配線にさわらないこと

電気装置や配線に触れると、感電する恐れがあります。



濡れた手で電源プラグなど(電源プラグ使用の場合)の電気部品に触れたり、本体の 各スイッチを操作しないこと

濡手禁止

漏電、ショート、感電の原因になります。



異常時は、停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、電源プラグを抜く(電源 プラグ使用の場合)か、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にしてすぐにお買上げ店 へ連絡すること

専用電源切

異常のまま使用を続けると、ショート、感電、火災の原因になります。



ガス器具などからガスが漏れていたら、本機を使用せずに、窓をあけて換気すること

本機の操作スイッチを押したり、電源プラグを抜いたり(電源プラグ使用の場合)す ると、引火爆発し危険です。



1回に調理する量は、調理する食材により異なりますが、目安として容器の1/3~2/ 3の範囲内にすること

容量を守る

食材の量が多すぎると、調理中、スクレーパーアームやブリクサー刃カッターなどの 部品を破損する原因になります。 部品の破片が食材に入ると、異物混入の原因になります。



ブリクサー刃カッターの刃は、鋭利ですから、直接刃の部分に触れないこと

ブリクサー刃カッターの刃に触れた場合、ケガの原因になります。

⚠ 警 告



容器より取り外したブリクサー刃カッターは、丈夫な台の上に置くこと

転倒させたり、落としたりした場合、ケガの原因になります。



ブリクサー刃カッターの回転中は、投入口から指、箸、スプーンなどを入れないこと

ブリクサー刃カッターの刃に触れた場合、ケガの原因になります。 ブリクサー刃カッターや箸、スプーンが破損した場合は、異物混入の原因になります。



ブリクサー刃カッターの回転が完全に止まるまでは、容器蓋を取り外さないこと

ブリクサー刃カッターに触れた場合、ケガの原因になります。 食材が飛び散り、周囲を汚す原因になります。



容器に食材を入れるときや取り出すときは、停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、電源プラグを抜く(電源プラグ使用の場合)か、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にすること

誤って操作スイッチに触れた場合、ブリクサー刃カッターが回転してケガをする恐れがあります。



容器の取り外しの際は、停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にすること

誤って操作スイッチに触れた場合、ブリクサー刃カッターが回転してケガをする恐れがあります。



容器内の食材の取り出しは、先にブリクサー刃カッターを外してからおこなうこと

ブリクサー刃カッターの刃に触れた場合、ケガの原因になります。



容器蓋に、ハンドルとスクレーパーアームAssyを取り付けた後は、スクレーパーアームAssyが外れないことを確認すること

ハンドルとスクレーパーアームAssyの取り付けが不充分の場合、調理中にスクレーパーアームが容器内に落ちる恐れがあり、異物混入の原因になります。



スクレーパーアームAssyの部品が破損や劣化している場合は使用しないこと

部品が破損や劣化した状態で使用されますと、調理中に破片などが食材に入り、異物 混入の原因になります。 新しい部品をご購入ください。



モーター軸部に、付いているシャフトシールは、傷を付けないこと

シャフトシールを損傷しますと、容器から調理液や洗浄液が漏れた場合、モーター軸 内へ流れ込み、漏電、ショート、感電の原因になります。

⚠ 警告



オプションの波刃カッターAssyやギザ刃カッターAssyの分解の際に、カッター取外し固定具が破損して、カッターAssyを固定できなくなった場合は、使用しないこと

分解の際、カッターAssyが固定できないと、ケガの原因になります。 カッター取外し固定具が破損している場合は、新しいカッター取外し固定具をご購入 ください。



修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理したりしないこと

修理に不備があると、ショート、感電、火災などの原因になります。





改造は絶対におこなわないこと

改造をされると、容器からの液漏れや漏電、ショート、感電、火災の原因になります。



移設は専門業者か、お買上げ店に連絡すること

電気の配線に不備があると、漏電、ショート、感電、火災の原因になります。



廃棄は専門業者か、お買上げ店に依頼すること

放置しますと、子供などがケガをする原因になります。

△注意



丈夫で平らな所に水平になるように据え付けること

据え付ける場所が、ガタついていたり、かたむいていたりしますと転倒、落下による ケガなどの原因になります。



本機の上に重量物や、水を入れた容器を置かないこと

落下してケガをしたり、こぼれた水で電気部品の絶縁が悪くなり、漏電、ショート、 感電の原因になります。



電源プラグを使用の場合、コンセントから電源プラグを抜くときは、電源コードを持って抜かないこと

必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると電源プラグ内部でコードが傷つき、ショート、感電、火災の原因になります。

企注意



熱器具を乗せたり、熱器具を周囲に置いたりしないこと

熱で樹脂の部品が変形したり、破損したりした場合、ケガの原因になります。



容器を本体に取付けるときは、「カチッ」と止まるところまで回すこと

容器が本体に固定されていないと、調理中に容器が外れることがあり危険です。



容器蓋を取り付けるときは、指を挟まないこと

ケガの原因になります。



可燃性のスプレーを近くで使用したり、可燃物を置いたりしないこと

本機の操作スイッチを入れたり、電源プラグを抜いたり(電源プラグ使用の場合)すると、発火の原因になります。



可燃物禁止

液体の食材は、必ず低速のみで調理すること

高速で調理しますと、容器と容器蓋の間から食材が漏れて、周囲を濡らす原因になります。



お手入れのときや点検のときは、必ず停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、 本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にすること

誤って操作スイッチを入れた場合、ブリクサー刃カッターが回転してケガの原因になります。 漏電、ショート、感電の原因にもなります。



ブリクサー刃カッター、容器、容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssy、蓋パッキン、モーター軸部など食材が接する部分は使用後、必ず除菌洗浄剤で洗浄、清掃すること

除菌洗浄

除菌洗浄しないと、付着した食材が腐敗し、雑菌が繁殖して健康障害の原因になります。



オプションの波刃カッターAssyやギザ刃カッターAssyの各部品は使用後、必ず除菌 洗浄剤で洗浄、清掃すること

除菌洗浄しないと、付着した食材が腐敗し、雑菌が繁殖して健康障害の原因になります。

企注意



分解洗浄

オプションの波刃カッターAssyやギザ刃カッターAssyの使用後、カッターAssyは、必ず分解して除菌洗浄すること

除菌洗浄しないと、雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。



____ ネジ部洗浄

オプションの波刃カッターAssyやギザ刃カッターAssyのお手入れの際、カッターホルダーサポートとホルダーナットのネジ部は、きれいに洗浄すること

ネジ部に付着物があると、調理中にホルダーナットがゆるむことがあります。 ホルダーナットがゆるんだ状態で、カッターAssyを持った際、部品が外れて落下による、ケガの原因になります。



お手入れのときは、ブリクサー刃カッターを洗浄液の入ったコンテナやシンクなどに、 漬けたままにしておかないこと

泡でブリクサー刃カッターの刃が見えなくなり、誤って刃の部分に触れると、ケガの原因になります。



洗い流す

洗剤を使ったあとは、洗剤成分を充分に洗い流すこと

洗剤成分が残っていると、健康障害の原因になります。



埜止

付属の「FMI除菌洗浄剤」は、口に入れたり、飲み込んだりしないこと

健康障害の原因になります。



洗净剖保管

付属の「FMI除菌洗浄剤」は、子供の手の届かない所に保管すること

誤って口に入れたり、飲み込まれますと、健康障害の原因になります。



洗浄剤保管

付属の「FMI除菌洗浄剤」を取り扱うときは、ゴム手袋を着用すること

素手で取り扱うと、手荒れの原因になります。



入れ過ぎ禁止

調理中にブレードケーシングの上端を超える量の液体を入れないこと

液体がブレードケーシングを超えた場合、モーター軸部より機械の内部に流れ込み、 漏電、ショート、感電の原因になります。



専用電源切

ご使用後は、安全のため停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にし、電源プラグ使用の場合は、コンセントから電源プラグを抜くこと

電源プラグやコンセント部にほこりが溜まって発熱、発火の原因になります。

△注意



漏電遮断器は月に1回動作確認すること

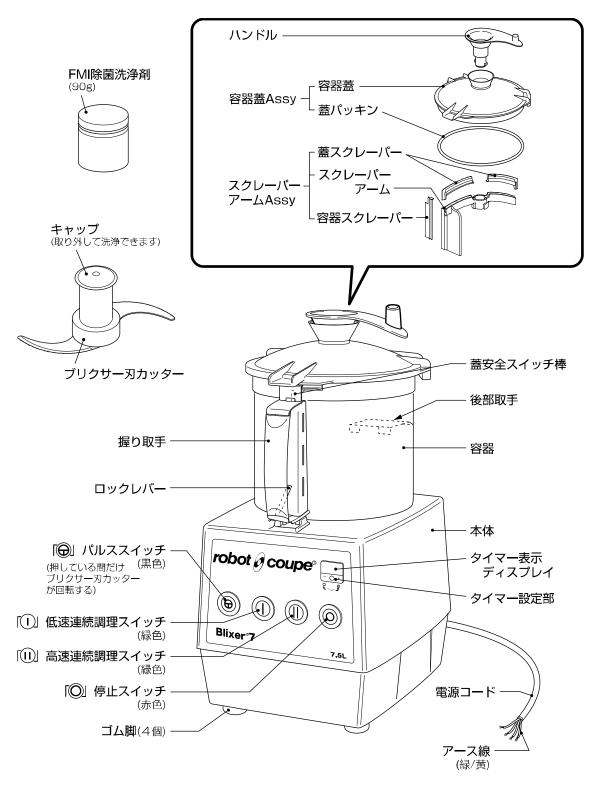
漏電遮断器を故障のまま使用すると、漏電のとき動作せず、感電の原因になります。



このお使いになっている商品を転売や、譲渡されるときには、新しく所有者となる方が安全な正しい使いかたを知るために、この取扱説明書を商品本体の目立つ所にテープ止めすること

各部の名称

本機は、食材を刻み調理や撹拌調理する機械です。



据付けについて

▲警告



本機の電源は、専用の漏電遮断器付サーキットブレーカーもしくは、それと同等の

設備に直接接続すること 電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、およびタコ足配線をした場合 には、感電や発熱、火災の原因になります。



湿気の多い所や、水などがかかり易い、または流れてくるところに据え付けないこ

本体や電源コードに水がかかりますと、絶縁低下から漏電、ショート、感電の原因 になります。



据え付ける場所が、水などで濡れていないことを確認すること

モーターが高速回転したとき、本体の底部から吸い上げ、モーターの絶縁不良と回 転不良の原因になります。また、漏電、ショート、感電の原因になります。



アース線を必ず接続すること

アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。 アースが不完全な場合、感電の原因になります。 設備側にアース端子がない場合、電気工事士によるD種接地工事が必要ですので、

電気工事店に依頼してください。

∧注意



丈夫で平らな所に水平になるように据え付けること 据え付ける場所が、ガタついていたり、かたむいていたりしますと転倒、落下によ るケガなどの原因になります。

作業に支障がないように、十分なスペースを確保してください

操作スイッチが正面にくるように据え付けてください

据え付ける場所が、水などで濡れていないことを確認してください

モーターが高速回転したとき、本体の底部から吸い上げ、モーターの故障の原因になりま す。

電源コードのアース線を設備側のアース端子に接続してください

アース線は、電源コードより出ている緑色の線です。

本機の電源コードを20A以上の専用漏電遮断器付きサーキットブレーカー もしくは、それと同等の設備に直接接続してください

本機は、パン生地などの負荷の高い食材を撹拌すると電流値が高くなることがあります。 そのため、20A以上の専用漏電遮断器付きサーキットブレーカーが必要です。

本機は、電源設備に電源コードを接続した場合、コードに余裕があるように 据え付けてください

電源コードの長さ:2.5m、4心

接続時には、モーター軸の回転方向が反時計方向になるように結線してください

結線後、本機を動作させて回転方向を確認してください。

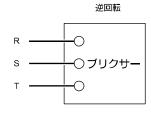
モーターが逆回転になってしまっている場合は、タイマー表示ディスプレイに「E26」を表示し停止します。

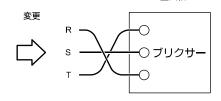
正回転

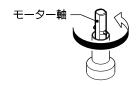
回転方向変更の方法

正しい回転方向

(上から見て反時計方向)







逆回転になった場合は、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にしてから、上の図を参照のうえ結線を変えて、回転方向を変えてください。

操作手順

お願い

本機は、食材を撹拌調理する機械です。
食材の撹拌調理以外には使用しないでください。

基本的な操作手順

1. 調理を始める前に「お手入れ」(38ページ)を参照して、容器、容器蓋、蓋パッキン、スクレーパーアームAssy、ハンドル、ブリクサー刃カッター*をきれいに洗浄してください

※ブリクサー刃カッターは以下、カッターと呼びます。

2. 容器を本体に取り付けてください

容器の握り取手のある方を手前にし、中心 より約45°左に向けて、本体に取り付けて ください。 容器

ロックレバー

上からの図

中心

後

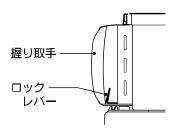
ロックガイド

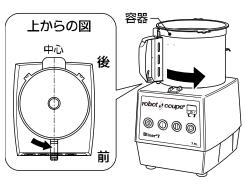
「robot si couper File Market F

容器の握り取手を持ち、反時計方向に「カチッ」と止まるところまで回してください。

ロックレバーがロックガイドにはまり込み、 容器が本体に固定されます。

容器が本体に正しく固定されているか、握り取手 を持ち、左右に少し動かして確認してください。





<u> 注意</u>



容器を本体に取付けるときは、「カチッ」と止まるところまで回すこと 容器が本体に固定されていないと、調理中に容器が外れることがあり危険です。

3. カッターを取り付けてください

▲ 警告

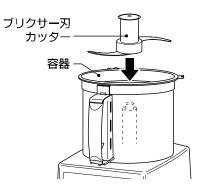


カッターの刃は、鋭利ですから、直接刃の部分に触れないこと

カッターの刃に触れた場合、ケガの原因になります。

カッターをモーター軸に差し込み、落ち込む位置まで 左右いずれかに回してください。

落ち込みましたら、上から軽く押し込んでください。



4. 調理する食材を容器内に入れてください

お願い

容器に食材を入れるときは、必ず先にカッターを取り付けてください。

先に食材を入れてしまいますと、カッターが入らなくなることがあります。

調理する食材は、基本的に包丁で切ることができる堅 さのものをご使用ください。

少し堅めの食材は、30mm角程度までの大きさに切ってください。

1回に調理できる量は、調理する食材により異なりますが、目安として容器の1/3~2/3の範囲内の量を入れてください。

液体物を調理するときは、4.OL 以内で調理してください。

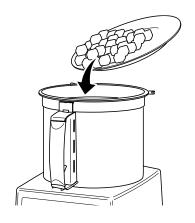
4.0Lを超える量の液体物を入れますと、調理中に容器蓋部分から食材が漏れ出る恐れがあります。

液体物を調理するときは、必ず低速連続調理スイッチ「①」(緑色)でおこなってください。

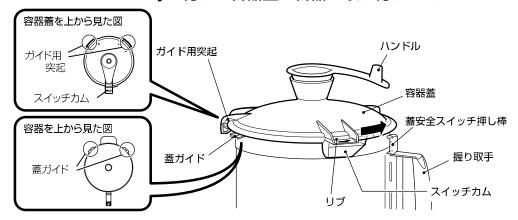
高速連続調理スイッチ「⑩」(緑色)で調理しますと、容器蓋部分から食材が漏れ出る恐れがあります。

調理する食材は85℃以下のものをご使用ください。 調理中に85℃を超える食材は調理しないでください。

容器蓋と蓋パッキン、カッターの樹脂部分および、スクレーパーアームAssyは、85℃を超える食材を調理すると変形したり、変色する恐れがあります。



5. スクレーパーアームAssyを付けた容器蓋を容器に取り付けてください



容器蓋のリブを手前にして、中心よりやや左に向くようにして容器に乗せてください。 容器蓋を軽く押さえながら、リブが握り取手の位置にくるまで、反時計方向にしっかり回 してください。

容器蓋のスイッチカムが、蓋安全スイッチ押し棒を押し下げて締まり、調理スタンバイモードになります。

同時に、容器の縁にある3箇所の蓋ガイド(前、右、左)が、蓋のガイド用突起にはまります。

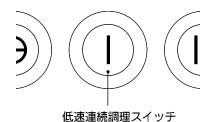
※ 容器蓋が容器に正しくセットされていないと、調理スイッチを押しても機械は、調理 をおこないません。

6. 本機専用ブレーカーを『ON(入)』にしてください

7. 低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を押して調理スタンバイモードにしてください

タイマー表示ディスプレイに「C1A」が表示された後、「O.OO」が表示されます。





お願い

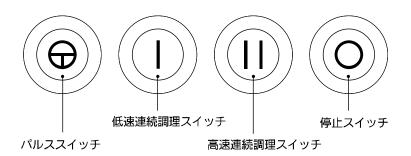
本機専用ブレーカーを『ON(入)』した後、低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を押して調理スタンバイモードにしてください。

本機は、本機専用ブレーカーを『ON(入)』にしただけでは調理は開始できません。

調理スタンバイモードの状態で、3分40秒~4分程度何も操作をしないと、タイマー表示ディスプレイが消灯し、約5分経過すると本機は「OFF(切)」の状態になります。

調理スタンバイモードに戻るには、低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を押してください。

8. 操作スイッチを押して調理をおこなってください



操作スイッチ	動作
パルススイッチ「 [®] 」(黒色)	押している間だけカッターが回転します。 本機専用ブレーカーを『ON(入)』にしたときに押した場合は、低速回転になります。 低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を使用した後に押した場合は、低速回転になります。 高速連続調理スイッチ「⑪」(緑色)を使用した後に押した場合は、高速回転になります。
低速連続調理スイッチ「①」(緑色)	カッターが低速で連続回転します。 (50Hz:1,500r.p.m.、60Hz:1,800r.p.m.)
高速連続調理スイッチ「⑪」(緑色)	カッターが高速で連続回転します。 (50Hz:3,000r.p.m.、60Hz:3,600r.p.m.)
停止スイッチ「◎」(赤色)	カッターの回転が止まります。

⚠ 注意

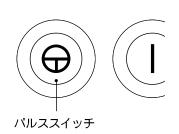


液体の食材は、必ず低速のみで調理すること 高速で調理しますと、容器と容器蓋の間から食材が漏れて、周囲を濡らす原因にな ります。

最初にパルススイッチ「⑥」(黒色)を数回押して、 食材を少し刻んでください。

パルススイッチ「[®] | (黒色)で食材を少し刻んで から低速連続調理スイッチ「①」(緑色)で調理を おこなってください。

調理ムラを抑えることができます。



お願い

パルススイッチ「®」(黒色)は、食材の刻みおよび調理はじめのかき混ぜ撹拌に使用し、 調理終了後には使用しないでください。

調理した食材は粘度が増しています。

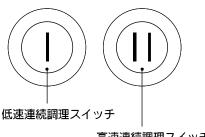
その状態でパルススイッチ 「◉ | (黒色)を使用すると、モーターに異常な負荷がかかり、 ブレーカーが『OFF(切)』になる原因になります。

調理は主に低速連続調理スイッチ「①」(緑色)でおこなってください。

高速連続調理スイッチ「⑩ | (緑色)は、最後の仕上げに10~30秒程度使用してください。 高速連続調理スイッチ「⑩ | (緑色)のみの調理はおこなわないでください。部品の破損 や機械の故障の原因になります。

低速連続調理スイッチ「① | (緑色)を押し て調理をおこなってください。

タイマー表示ディスプレイの値(時間)が カウントされます。



高速連続調理スイッチ

容器蓋は、透明になっていますので、調理の仕上がり状態を見ながら食材の量や調理時間 の調整をおこなってください。

お願い

調理スイッチを切替える場合は、下記の順番でおこなってください。

低速から高速に切り換える場合……低速連続調理スイッチ「^① | (緑色) →

→ 高速連続調理スイッチ「□ | (緑色)

高速から低速に切り換える場合……高速連続調理スイッチ「 \mathbb{O} 」(緑色) \rightarrow

→ 停止スイッチ「◎ | (赤色)

→ 低速連続調理スイッチ「① | (緑色)

高速からパルスに切り換える場合……高速連続調理スイッチ「 \mathbb{O} \mathbb{O}

→ 停止スイッチ「◎ | (赤色)

→ パルススイッチ「[®]」(黒色)

高速連続調理スイッチ「⑪|(緑色)から、直接低速連続調理スイッチ「⑰|(緑色)、およ びパルススイッチ「[®]」(黒色)には絶対に切り換えないでください。

モーターに大きな負荷がかかり、故障の原因になります。

調理中、異常音や振動が大きいときは、食材の量が多いことが考えられますので、食材の 量を減らしてください。

異常音や振動が大きいまま調理を続けますと、モーターの負荷が大きく、部品の破損や 機械の故障の原因になります。

お願い

粘度の高い食材は、容器の 1/3 以下の量に抑えて、20 秒以内で調理してください。

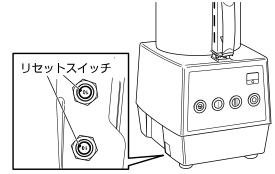
調理時間が長いと、故障の原因になります。

本機の定格時間は9分です。1回の運転は、長くても9分以内にしてください。 9分間調理をおこなった場合は、機械を止めて10分間休ませてください。

本機は、モーター保護装置が内蔵されています。 堅い食材や粘度の高い食材などを調理して、モーター に過負荷がかかった場合、モーター保護装置がはたら いて機械が止まります。

機械が止まった場合は、停止スイッチ「◎」(赤色)を押した後、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にして、止まる原因になった食材を取り除くか量を減らしてください。

本機の左底面にある2カ所のリセットスイッチを押し、本機専用ブレーカーを『ON(入)』にしてから、再度調理をおこなってください。



メモ

長時間調理をおこなおうとしても約9分経過すると機械は停止し、タイマー表示ディスプレイの表示も止まりますが、連続で調理をおこなうと、タイマー表示ディスプレイの表示は引き続きカウントされます。

表示を「0.00」に戻すには「-」スイッチと「+」スイッチを同時に押すか、停止スイッチ「◎ | (赤色)を約2秒間長押ししてください。

タイマー表示ディスプレイの表示のカウントは「9.59」を超えると「0.00」に切替わり「ピーッ」とアラーム音が鳴りますが、引き続き調理とカウントはおこなわれます。

タイマー表示ディスプレイの表示は消灯(無効化)させることができます。

先に停止スイッチ「◎」(赤色)を押しながら、低速連続調理スイッチ「◎」(緑色)を約4秒間長押しすると、ディスプレイの表示は消灯します。

ディスプレイの表示が消灯の状態でも、調理が約9分経過すると機械は停止します。 ディスプレイの表示が消灯の状態の場合、カウントが「9.59」を超えると「0.00」に 切替わるときの「ピーッ」というアラーム音は鳴りません。

ディスプレイを表示に戻す場合は、再度、先に停止スイッチ「 \bigcirc 」(赤色)を押しながら、低速連続調理スイッチ「 \bigcirc 」(緑色)を約4秒間長押ししてください。

本機にはタイマー機能があります。

タイマー機能で時間を設定すると、設定した時間、調理をおこないます。 調理時間がある程度決まっている調理は、タイマー機能を使うことで、調理時間を計りながら停止スイッチ「◎ | (赤色)を押すといった作業が不用になります。

「タイマー機能を使って、設定した時間調理をおこなう操作手順」(21ページ)を参照してください。

容器蓋内や容器の内側に付着した食材を書き落とす場合

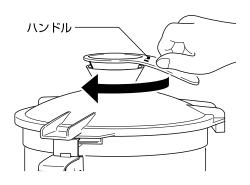
調理中、容器の内側面および蓋の内側に付着した食材は、蓋の上から状態を見ながら、ハンドルを時計方向にゆっくり回してかき落としてください。

調理後の取り出しの際も、かき落としてください。

お願い

ハンドルを回す場合は、必ず時計方向にゆっくり回 してください。

逆に回したり、早く回したりすると容器スクレーパーが破損する原因になります。



調理中、調味料などを投入する場合

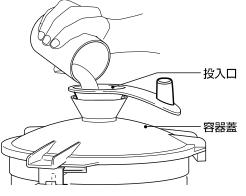
ハンドル中央の開口部は、投入口になっています。 必要に応じて、追加食材や調味料を投入して ください。

♠ 警告



カッターの回転中は、投入口から指、 箸、スプーンなどを入れないこと カッターの刃に触れた場合、ケガの 原因になります。

カッターや箸、スプーンが破損した場合は、異物混入の原因になります。

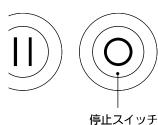


9. 調理が終わりましたら、停止スイッチ「[◎]」(赤色)を押して機械を止め、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にしてください

▲ 警告



容器に材料を入れるときや取り出すときは、停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、電源プラグを抜く(電源プラグ使用の場合)か、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にすること誤って操作スイッチに触れた場合、カッターが回転してケガをする恐れがあります。



お願い

機械を止めるときは、必ず停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止めてください。

運転中に容器蓋を開けて運転を止める使いかたをしますと、故障の原因になります。

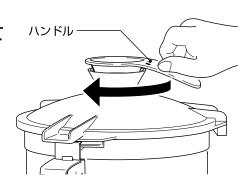
メモ

機械を止めるとタイマー表示ディスプレイの表示も止まります。

連続で調理をおこなうと、タイマー表示ディスプレイの表示は引き続きカウントを開始します。

表示を「0.00」に戻すには「-」スイッチと「+」スイッチを同時に押すか、停止スイッチ「©」(赤色)を約2秒間長押ししてください。

10. 容器の内側面および蓋の内側に付着した食材は、ハンドルを時計方向にゆっくり回してかき落としてください



11. 容器蓋を取り外してください

▲ 警告

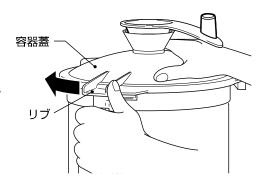


カッターの回転が完全に止まるまでは、容器蓋を取り外さないこと カッターに触れた場合、ケガの原因になります。 材料が飛び散り、周囲を汚す原因になります。

容器蓋は、時計方向に少し回して取り外してください。

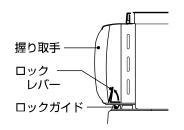
容器蓋がかたくて動かない場合は、左手で容器 の取手をつかんで、親指を容器蓋のリブにかけ、 右手で容器蓋をつかんでください。

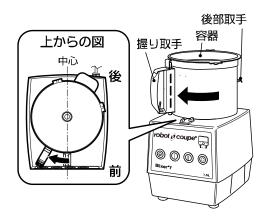
左手の親指を押し出すようにして、右手を時計 方向に回してください。



12. 容器を取り外してください

容器の握り取手のロックレバーを指で一緒に握り、ロックレバーがロックガイドから外れた状態にして、時計方向に約45°回してください。





カッターを付けたまま容器の両方の取手(握り取手と後部取手)を持って、真っ直ぐ上に持ち上げ、本体より容器を取り外してください。

13. 容器からカッターを取り出し、食材を他の容器に取り出してください

♠ 警告



容器内の食材の取り出しは、先にカッターを外してからおこなうこと カッターの刃に触れた場合、ケガの原因になります。

14. 使用後は、本機のお手入れをしてください

「お手入れ」 (38ページ) 参照

タイマー機能を使って、設定した時間調理をおこなう操作手順

タイマー機能で時間を設定すると、設定した時間、調理をおこないます。

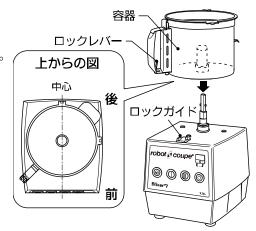
調理時間がある程度決まっている調理は、タイマー機能を使うことで、調理時間を計りながら停止スイッチ「◎ | (赤色)を押すといった作業が不用になります。

1. 調理を始める前に「お手入れ」(38ページ)を参照して、容器、容器蓋、蓋パッキン、スクレーパーアームAssy、ハンドル、ブリクサー刃カッター*をきれいに洗浄してください

※ブリクサー刃カッターは以下、カッターと呼びます。

2. 容器を本体に取り付けてください

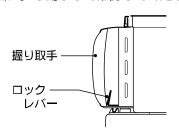
容器の握り取手のある方を手前にし、中心より約45°左に向けて、本体に取り付けてください。

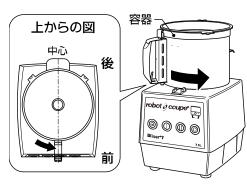


容器の握り取手を持ち、反時計方向に「カチッ」と止まるところまで回してください。

ロックレバーがロックガイドにはまり込み、 容器が本体に固定されます。

容器が本体に正しく固定されているか、握り取手を持ち、左右に少し動かして確認してください。





注意



容器を本体に取付けるときは、「カチッ」と止まるところまで回すこと 容器が本体に固定されていないと、調理中に容器が外れることがあり危険です。

3. カッターを取り付けてください

⚠ 警告



カッターの刃は、鋭利ですから、直接刃 の部分に触れないこと カッターの刃に触れた場合、ケガの原因

になります。

カッターをモーター軸に差し込み、落ち込む位置まで 左右いずれかに回してください。

落ち込みましたら、上から軽く押し込んでください。



4. 調理する食材を容器内に入れてください

お願い

容器に食材を入れるときは、必ず先にカッターを取り 付けてください。

先に食材を入れてしまいますと、カッターが入らな くなることがあります。

調理する食材は、基本的に包丁で切ることができる堅 さのものをご使用ください。

少し堅めの食材は、30mm角程度までの大きさに 切ってください。

1回に調理できる量は、調理する食材により異なりま すが、目安として容器の1/3~2/3の範囲内の量 を入れてください。

液体物を調理するときは、4.OL以内で調理してくだ さい。

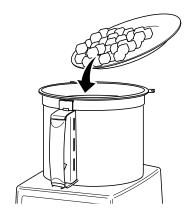
4.OLを超える量の液体物を入れますと、調理中に 容器蓋部分から食材が漏れ出る恐れがあります。

液体物を調理するときは、必ず低速連続調理スイッチ 「①」(緑色)でおこなってください。

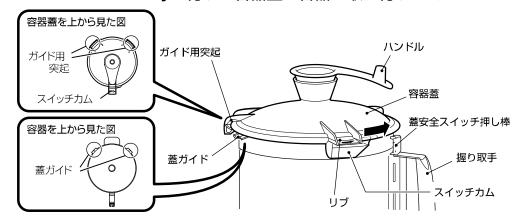
高速連続調理スイッチ (W | (緑色)で調理しますと、 容器蓋部分から食材が漏れ出る恐れがあります。

調理する食材は85℃以下のものをご使用ください。 調理中に85℃を超える食材は調理しないでください。

容器蓋と蓋パッキン、カッターの樹脂部分および、 スクレーパーアームAssyは、85℃を超える食材を 調理すると変形したり、変色する恐れがあります。



5. スクレーパーアームAssyを付けた容器蓋を容器に取り付けてください



容器蓋のリブを手前にして、中心よりやや左に向くようにして容器に乗せてください。 容器蓋を軽く押さえながら、リブが握り取手の位置にくるまで、反時計方向にしっかり回 してください。

容器蓋のスイッチカムが、蓋安全スイッチ押し棒を押し下げて締まり、調理スタンバイモードになります。

同時に、容器の縁にある3箇所の蓋ガイド(前、右、左)が、蓋のガイド用突起にはまります。

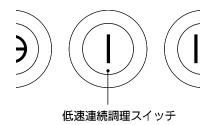
※ 容器蓋が容器に正しくセットされていないと、調理スイッチを押しても機械は、調理をおこないません。

6. 本機専用ブレーカーを『ON(入)』にしてください

7. 低速連続調理スイッチ「^①」(緑色)を押して調理スタンバイモードにしてく ださい

タイマー表示ディスプレイに「C1A」が表示された後、「O.OO」が表示されます。





お願い

本機専用ブレーカーを『ON(入)』した後、低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を押して調理スタンバイモードにしてください。

本機は、本機専用ブレーカーを『ON(入)』にしただけでは調理は開始できません。

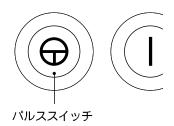
調理スタンバイモードの状態で、3分40秒~4分程度何も操作をしないと、タイマー表示ディスプレイが消灯し、約5分経過すると本機は「OFF(切)」の状態になります。

調理スタンバイモードに戻るには、低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を押してください。

8. 最初にパルススイッチ「🖲」(黒色)を数回押して、食材を少し刻んでください

パルススイッチ「[®]」(黒色)で食材を少し刻んでから調理をおこなってください。

調理ムラを抑えることができます。



お願い

パルススイッチ「 $^{oldsymbol{oldsymbol{\Theta}}}$ 」(黒色)は、食材の刻みおよび調理はじめのかき混ぜ撹拌に使用し、調理終了後には使用しないでください。

調理した食材は粘度が増しています。

その状態でパルススイッチ「⑩」(黒色)を使用すると、モーターに異常な負荷がかかり、 漏電遮断機が『OFF(切)』になる原因になります。

メモ

パルススイッチ「®」(黒色)は、調理時間を設定した後にご使用いただけます。 パルススイッチ「®」(黒色)による調理は、設定した調理時間には含まれません。 パルススイッチ「® | (黒色)を押している間は、通常のカウントをおこないます。

9. 調理時間を設定してください

設定はリセットされます。

タイマー表示ディスプレイに「0.00」と表示されている状態で、「+」スイッチを押すと、「0.05」(5秒)と表示され、そのあとは、「+」スイッチを押すごとに1秒増えます。

「一」スイッチを押すごとに 1 秒減ります。

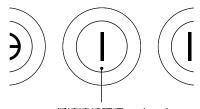
設定可能時間: 0.05(5秒)~9.00(9分) 時間は、9分以上設定することができますが、調理が9分を経過すると機械は停止します。

9分間調理をおこなった場合は、機械を止めて10 分間休ませてください。

設定をリセットする場合は、「-」スイッチと「+」スイッチを同時に押すか、停止スイッチ「◎」(赤色)を約2秒間長押ししてください。本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にすることでも



10. 低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を押して調理を開始してください



低速連続調理スイッチ

操作スイッチ	動作
低速連続調理スイッチ「①」(緑色)	カッターが低速で連続回転します。 (50Hz:1,500r.p.m.、60Hz:1,800r.p.m.)
停止スイッチ「 [◎] 」(赤色)	カッターの回転が止まります。

調理中は、タイマー表示ディスプレイの数値が減算していきます。 「0.00」になると、「ピーッ」とアラーム音が鳴り、カッターの回転が止まります。 タイマー表示ディスプレイには設定値が再度表示されます。

お願い

調理中、異常音や振動が大きいときは、食材の量が多いことが考えられますので、食材の 量を減らしてください。

異常音や振動が大きいまま調理を続けますと、モーターの負荷が大きく、部品の破損や 機械の故障の原因になります。

粘度の高い食材は、容器の 1/3 以下の量に抑えて、20 秒以内で調理してください。 調理時間が長いと、故障の原因になります。

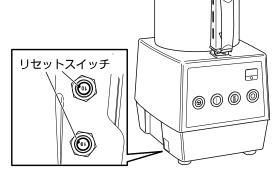
本機は、モーター保護装置が内蔵されています。

堅い食材や粘度の高い食材などを調理して、モーター に過負荷がかかった場合、モーター保護装置がはたら

いて機械が止まります。

機械が止まった場合は、停止スイッチ 「◎ | (赤色)を押した後、本機専用ブ レーカーを『OFF(切)』にして、止ま る原因になった食材を取り除くか量を 減らしてください。

本機の左底面にある2カ所のリセット スイッチを押し、本機専用ブレーカーを 『ON(入)』にしてから、再度調理をお こなってください。



容器蓋内や容器の内側に付着した食材を書き落とす場合

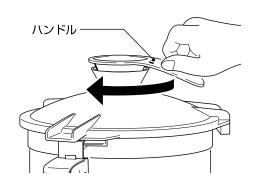
調理中、容器の内側面および蓋の内側に付着した 食材は、蓋の上から状態を見ながら、ハンドルを 時計方向にゆっくり回してかき落としてくださ い。

調理後の取り出しの際も、かき落としてください。

お願い

ハンドルを回す場合は、必ず時計方向にゆっくり回してください。

逆に回したり、早く回したりすると容器スクレーパーが破損する原因になります。



調理中、調味料などを投入する場合

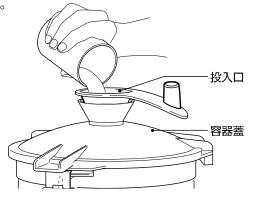
ハンドル中央の開口部は、投入口になっています。 必要に応じて、追加食材や調味料を投入して ください。

企警告



カッターの回転中は、投入口から指、 箸、スプーンなどを入れないこと カッターの刃に触れた場合、ケガの 原因になります。

カッターや箸、スプーンが破損した 場合は、異物混入の原因になります。



タイマー機能の調理の途中で、停止スイッチ「[©]」(赤色)を押した場合、残りの時間が表示されたまま、カッターの回転が止まります。

継続して調理をおこなう場合は、低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を押すと、残りの時間、調理をおこないます。

継続して調理をしない場合は、「−」スイッチと「+」スイッチを同時に押すか、停止スイッチ「◎ | (赤色)を約2秒間長押しして、タイマー機能をリセットしてください。

設定をリセット、または変更しなければ、同じ時間の設定でタイマー機能を繰り返しお使いいただくことができます。

11. 調理が終わりましたら、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にしてください

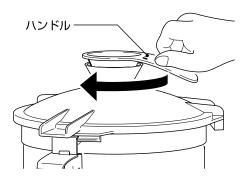
魚 警告



容器に材料を入れるときや取り出すときは、停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、電源プラグを抜く(電源プラグ使用の場合)か、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にすること

誤って操作スイッチに触れた場合、カッターが回転してケガをする恐れがあります。

12. 容器の内側面および蓋の内側に付着した食材は、ハンドルを時計方向にゆっくり回してかき落としてください



13. 容器蓋を取り外してください

<u>↑</u> 警告

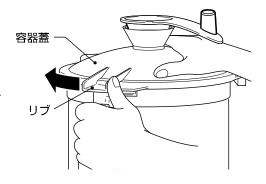


カッターの回転が完全に止まるまでは、容器蓋を取り外さないこと カッターに触れた場合、ケガの原因になります。 材料が飛び散り、周囲を汚す原因になります。

容器蓋は、時計方向に少し回して取り外してください。

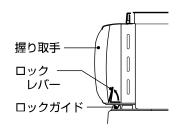
容器蓋がかたくて動かない場合は、左手で容器の取手をつかんで、親指を容器蓋のリブにかけ、右手で容器蓋をつかんでください。

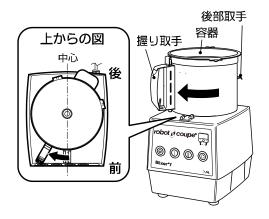
左手の親指を押し出すようにして、右手を時計 方向に回してください。



14. 容器を取り外してください

容器の握り取手のロックレバーを指で一緒に握り、ロックレバーがロックガイドから外れた状態にして、時計方向に約45°回してください。





カッターを付けたまま容器の両方の取手(握り取手と後部取手)を持って、真っ直ぐ上に持ち上げ、本体より容器を取り外してください。

15. 容器からカッターを取り出し、食材を他の容器に取り出してください

♠ 警告



容器内の食材の取り出しは、先にカッターを外してからおこなうこと カッターの刃に触れた場合、ケガの原因になります。

16. 使用後は、本機のお手入れをしてください

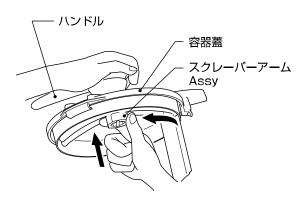
「お手入れ」 (38ページ) 参照

容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssyの分解と組立て方法

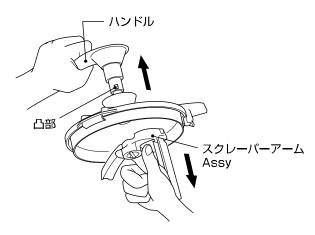
容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssyの分解方法

1. スクレーパーアームのロックを外 してください

左手で容器蓋に取り付けられているハンドルをしっかり持ち、右手で容器蓋内側のスクレーパーアームAssyの中央を持って上方向に強く押しながら、反時計方向に45°回すと、ロックが外れます。



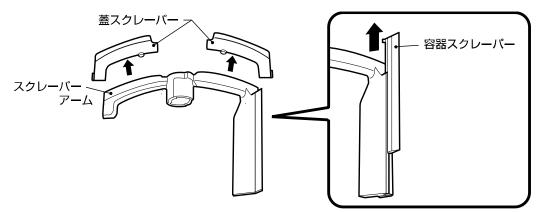
2. 容器蓋からハンドルと、スクレー パーアームAssyを取り外してく ださい



3. スクレーパーアームから、蓋スクレーパー、容器スクレーパーを取り外して ください

蓋スクレーパーは、引っ張って取り外してください。

容器スクレーパーは、スライドさせて取り外してください。



4. 容器蓋から蓋パッキンを取り外してください

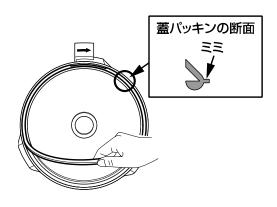
蓋パッキンのミミの部分をつまんで持ちあげて、取り外してください。

お願い

蓋パッキンを取り外す際は、パッキンに傷をつけないでください。

蓋パッキンのミミの切り欠き部は、引っ張らないでください。

蓋パッキンに傷がつくと、調理中に容器と容器蓋の間から食材がもれる原因になります。



容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssyの組立て方法

1. 容器蓋に蓋パッキンを取り付けてください

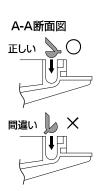
容器蓋の内側を手前に向けて、リブを上 方にくるようにしてください。

蓋パッキンは、丸みのある方を下に向け、 パッキンの切り欠き部を容器蓋のリブに 合わせてください。

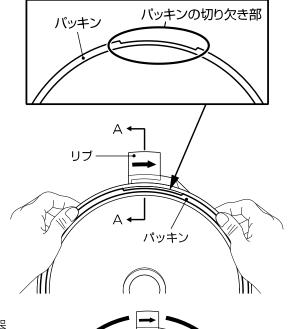
お願い

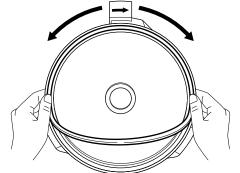
蓋パッキンをはめ 込む際、向き (裏表) を間違わないでく ださい。

蓋パッキンの向 き(裏表)を間違 えると容器蓋が 正しく閉まりま せん。



蓋パッキンを親指の腹で押さえながら、容器 蓋の円周に沿って、蓋パッキン全体を溝にし っかりとはめ込んでください。

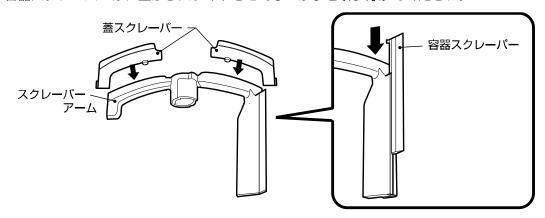




2. スクレーパーアームに、蓋スクレーパー、容器スクレーパーを取り付けてく ださい

蓋スクレーパーは、向きを間違わないようにスクレーパーアームの溝にしっかりと取り付けてください。

容器スクレーパーは、上からスライドさせてしっかりと取り付けてください。



3. 容器蓋にハンドルとスクレーパーアームAssyを元通り取り付けてください

お願い

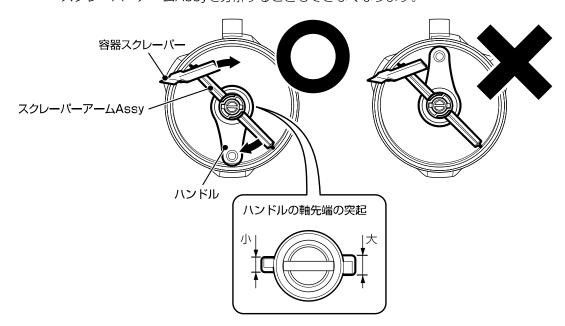
スクレーパーアーム Assy には取り付けの向きがあります。

スクレーパーアームの容器スクレーパーとハンドルが逆の向きになるようにして取り付けてください。(下図を参考にしてください。)

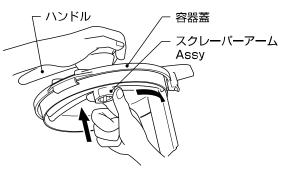
ハンドルの軸先端には突起、大と小があります。

間違った向きの状態ではロックが正常にかからず、調理中にスクレーパーアームAssy が容器内に落ち、部品の破損、異物混入の原因になります。

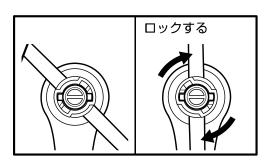
間違った向きで無理にはめ込みますと、スクレーパーアームAssyを破損します。 スクレーパーアームAssyを分解することもできなくなります。



ハンドルの軸を容器蓋の外側から差し込み、スクレーパーアームAssyを中央の穴の形状とハンドルの軸先端の形状が合うように、はっめ込んでください。



スクレーパーアームAssyを上方向に強く押しながら、時計方向に45°回し、確実にロックしてください。



⚠ 警告



容器蓋に、ハンドル、スクレーパーアームAssyを取り付けた後は、スクレーパーアームAssyが外れないことを確認すること ハンドル、スクレーパーアームAssyの取り付けが不充分の場合、調理中にスクレーパーアームが容器内に落ちる恐れがあり、破損や異物混入の原因になります。



スクレーパーアームAssyの部品が破損や劣化している場合は使用しないこと 部品が破損や劣化した状態で使用されますと、調理中に破片などが食材に入り、異物混入の原因になります。 新しい部品をご購入ください。

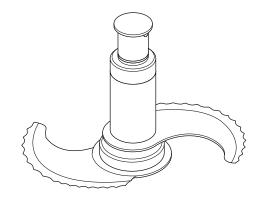
オプション部品

波刃カッターAssy

主に堅いものの粉砕をはじめ、製菓製パン用の生地づくりに最適。

エビ、貝類などの甲殻類の粉砕。

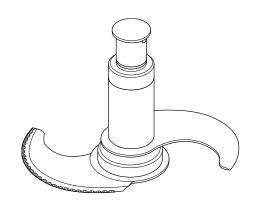
とりのガランティ、サーモンムース、ブリオッシュ、マジパンなどに最適。



ギザ刃カッターAssy

標準付属のブリクサー刃カッターと同様の調理 ができます。

パセリのような葉もの、海藻などのみじん切り などにも適しています。



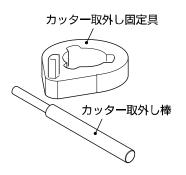
カッター取外しAssy

オプションの波刃カッターAssy、ギザ刃カッターAssyを分解するときに使用します。

⚠ 警告



カッターAssyを分解するときは、カッター取外しAssyを必ず使用すること カッター取外しAssyを使用せずに、分解作業をおこないますとケガをする恐れがあります。



波刃カッターAssy、ギザ刃カッターAssyの分解と組立て方法

カッターAssy の分解方法

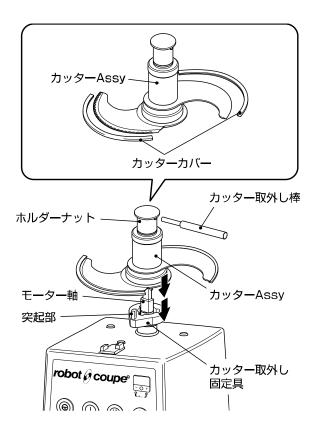
↑ 警告



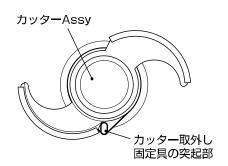
カッターは、鋭利ですから、直接刃の部分に触れないこと ケガをする恐れがあります。

カッター取外し固定具が損傷した場合は、使用しないこと ケガの原因になります。新しいカッター取外し固定具をご購入ください。

- 1. 本機専用ブレーカーを必ず『OFF(切)』にしてください
- 2. 容器固定ベースから容器を取り外してください
- 3. 本体のモーター軸に、カッター 取外し固定具(樹脂製)を、形状 を合わせてはめ込んでください
- 4. カッターの刃先に、カッターカバーを取り付けてください
- 5. その上から、カッターAssyを モーター軸に差し込んでくだ さい



6. 下部のカッターの付け根が、カッター取外し固定具の突起部に 当たるように向きを変えてくだ さい

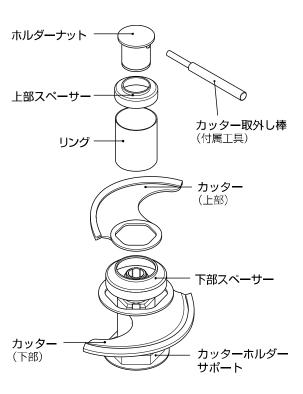


- 7. ホルダーナットの穴部に、カッター 取外し棒を差し込んで、反時計方向 に回し、ホルダーナットをゆるめて ください
- 8. ホルダーナットを手で回して取り外 してください

日常の分解洗浄を怠ったり、長期間放置 しておいた場合は、カッターホルダーナットが固着して緩まなくなることがあり ます。

使用後は分解洗浄を必ずおこなってください。

9. カッターホルダーサポートより、 ホルダーナット、上部スペーサー、 リング、下部スペーサー、各カッ ターを取り外してください



カッターAssy の組立て方法

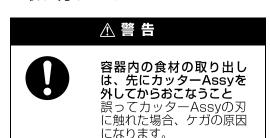
♠ 注意

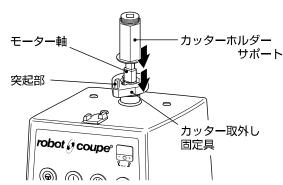


お手入れの際、カッターホルダーサポートとホルダーナットのネジ部は、きれいに 洗浄すること

ネジ部に付着物があると、調理中にホルダーナットがゆるむことがあります。 ホルダーナットがゆるんだ状態で、カッターAssyを持った際、部品が外れて落下 による、ケガの原因になります。

- 1. モーター軸にカッター取外し固定具を取り付けてください
- 2. カッターの刃先にカッターカバー を取り付けてください



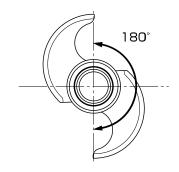


- 3. モーター軸にカッターホルダーサポートを差し込んでください
- 4. カッターホルダーサポートに各カッター、下部スペーサー、リング、上部スペーサーを取り付けてください

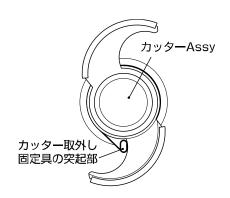
カッターの取り付け方向は、必ずバランスがとれるように等角度にしてください。

お願い

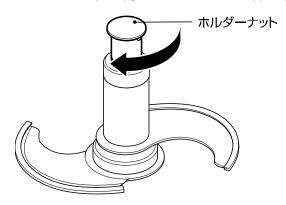
カッターは、必ずバランスがとれる ように等角度に取り付けてください。 カッターを等角度に取り付けない と、機械の故障の原因になります。



5. 下部のカッターの背面部分が、カッター取外し固定具の突起部に当たるように向きを変えてください



6. カッターホルダーナットを取り付けて、しっかり締め付けてください



お手入れ

いつも清潔にご使用いただくためと、機械を長持ちさせるために、次の場合、必ず「お手入れ」 をおこなってください

初めて機械を使用する場合。

調理後、速やかに。

繰り返し使用する場合、30分おき。

↑ 警告



本体に直接水をかけないこと 漏電、ショート、感電の原因になります。

注意



お手入れのときや点検のときは、必ず停止スイッチ『[©]』(赤色)を押して機械を止め、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にすること 誤って操作スイッチを入れた場合、ブリクサー刃カッターが回転してケガの原因になります。 漏電、ショート、感電の原因にもなります。

お願い

容器、容器蓋、蓋パッキン、ブリクサー刃カッターの樹脂部分、スクレーパーアーム、ハンドル、容器スクレーパー、蓋スクレーパーは、食器洗浄機などは使用せずに85℃以下のお湯で洗浄してください。

高温洗浄すると変形したり、変色したりする恐れがあります。

洗浄や清掃をするときは、かたいタワシなどでこすらないでください。 キズがつく恐れがあります。

洗浄後、本機を保管される場合は、各部品にアルコール除菌剤をスプレーしてください。

次亜塩素酸ソーダを含む除菌剤や電解酸性水、オゾン水は、使用しないでください。 部品の劣化、および変色の原因になります。

清掃をするとき、クレンザー、酸類、アルカリ性洗剤、ベンジン、ガソリン、シンナーなどは使用しないでください。

傷がついたり、破損の原因になります。

気泡性、強力な浸食性、有毒性のある洗浄剤は絶対に使用しないでください。 やむを得ず、塩素系の洗剤や電解酸性水、オゾン水などを使用して洗浄をおこなう場合は、 漬け置きしないで洗浄してください。

洗浄後は、十分すすいでから速やかに水気を切り、完全に乾燥させてください。 塩素系の洗剤や電解酸性水、オゾン水などに、漬け置きしますと、錆および腐食の原因 になります。 除菌洗浄をおこなう際の洗浄剤は、付属の「FMI除菌洗浄剤」のような無泡性および低発泡性で、厨房設備および調理器具用のものを使用し、入れすぎないようにしてください。 濃度が濃すぎると金属、プラスチック、ゴムの部品を損傷します。

除菌洗浄剤(「FMI除菌洗浄剤」を含む)、アルコール除菌剤の使用については、各々の 定める使用方法および、使用上の注意事項に従ってください。

「FMI除菌洗浄剤」をご購入の場合は、弊社(株式会社 エフ・エム・アイ)または納入代理店へご連絡ください。

容器、容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssy、カッターの洗浄

- 1. 本機専用ブレーカーを必ず『OFF(切)』にしてください
- 2. 本体より容器蓋、容器を取り外し、容器からブリクサー刃カッター*を取り出してください

※ブリクサー刃カッターは以下、カッターと呼びます。

3. 容器蓋から、ハンドル、スクレーパーアームAssy、蓋パッキンを取り外してください

「容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssyの分解方法」(29ページ)を参照してください。

- 4. 水または温水で、容器内部、容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssy の各部品、蓋パッキン、カッターをすすぎ洗いして、付着した食材を洗い流してください
- 5. 本体以外の各部品を洗浄してください

<u> 注</u>意

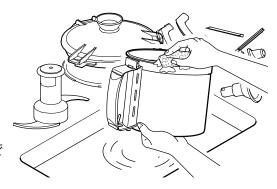


カッター、容器、容器蓋、スクレーパーアームAssy、蓋パッキン、モーター軸部など食材が接する部分は使用後、必ず除菌洗浄剤で洗浄、清掃すること除菌洗浄しないと、付着した食材が腐敗し、雑菌が繁殖して健康障害の原因になります。

コンテナやシンクにぬるま湯を入れ、定められた使用濃度の分量の除菌洗浄剤を入れて溶かしてください。

除菌洗浄剤を入れたぬるま湯の中で、容器、容器蓋、蓋パッキン、ハンドル、蓋スクレーパー、スクレーパーアーム、容器スクレーパーを布かスポンジを用いてきれいに洗ってください。

※ 硬いタワシなどでこすると、傷が付きますので 布かスポンジで洗ってください。



6.カッターをきれいに洗浄してください

♠ 警告



カッターの刃は、鋭利ですから、直接刃の部分に触れること カッターの刃に触れた場合、ケガの原因になります。

⚠ 注意



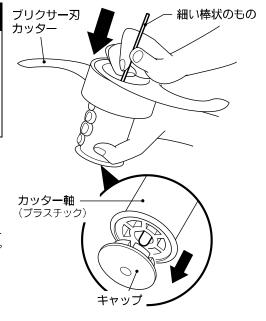
お手入れのときは、カッターを洗浄液の入ったコンテナやシンクなどに、漬けたままにしておかないこと泡でカッターの刃が見えなくなり、誤って刃の部分に触れると、ケガの原因になります。

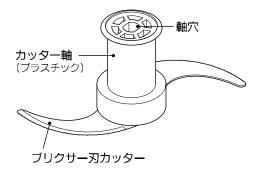
カッターを洗浄する場合は、プラスチックの部分を持って、布かスポンジを使って洗浄してください。

カッターの内部を洗浄する場合は、カッターのキャップを取り外して、カッター軸穴部とキャップを洗浄してください。

お手持ちの細い棒状のもので、カッターの底から軸穴内部よりキャップをゆっくり押して取り外してください。

軸穴部およびキャップに付着した食材や汚れを、除菌洗浄剤を溶かしたぬるま湯の中でお手持ちのブラシなどを使用してきれいに取り除いてください。

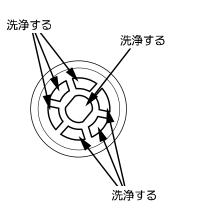




お願い

カッターの各部品および容器の洗浄は速やかにおこない、洗浄液や水、お湯に漬け置きしないでください。

漬け置きをしますと、金属部分が錆びる恐れがあります。



- 7. 洗浄した各部品をきれいな水または温水で、洗剤成分が残らないように、充分すずぎ洗いをしてください
- 8. 各部品は、速やかに除菌済みのきれいな乾いた布などで水分を拭き取り、充分空気乾燥させてください
- 9. 乾燥した各部品にアルコール除菌剤をスプレーしてください

お願い

容器蓋にひびなどがないか確認してください。 ひびなどがある場合は、新しいものに交換してください。 容器蓋を購入される場合は、納入代理店か、弊社にご注文ください。

10. 容器蓋に蓋パッキン、ハンドル、スクレーパーアームAssyを取り付けてくだ さい

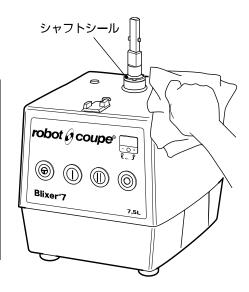
「容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssyの組立て方法」(30ページ)を参照してください。

お願い

カッターのキャップの金属板と、ハンドル先端の金属部分が摩耗している場合は、カッターのキャップとハンドルを新しいものに交換してください。 カッターのキャップとハンドルは、お買上げ店にご注文ください。

- 11. カッターにキャップを元通り取り付けてください
- 12. 本体のモーター軸部および外装部は、除菌洗 浄剤を入れて溶かしたぬるま湯で布巾を絞 り、汚れをきれいに拭き取ってください

▲ 警告 本体に直接水をかけないこと 漏電、ショート、感電の原因になります。 モーター軸部に、付いているシャフト シールは、傷を付けないこと シャフトシールを損傷しますと、容器から調理液や洗浄液が漏れた場合、モーター軸内へ流れ込み、漏電、ショート、感電の原因になります。



- 13. 飲料用のきれいな水で絞った布で拭いて、完全に洗剤成分を拭き取ってください
- 14. 空気乾燥させてください

15. 本体は、アルコール除菌剤を染み込ませた布などで拭いて除菌してください

お願い

洗浄後、カッターおよび容器は、速やかに水気を切り、完全に乾燥させてください。 水分がついたまま放置しますと錆びる可能性があります。

洗浄後、本機を保管される場合は、各部品をアルコール除菌剤で除菌してください。 本機を使わないときは、乾燥した場所に保管してください。

機械を収納する場合は、充分乾燥させ、容器蓋をゆるめておいてください。 蓋を締め付けて、蓋安全スイッチ押し棒を押した状態で収納しますと、安全スイッチの 故障の原因になります。

オプションのカッターAssyの洗浄

⚠ 注意



カッターAssyの各部品は使用後、必ず除菌洗浄剤で洗浄、清掃すること 除菌洗浄しないと、付着した食材が腐敗し、雑菌が繁殖して健康障害の原因になり ます。

カッターAssyのお手入れの際、カッターホルダーサポートとホルダーナットのネジ部は、きれいに洗浄すること

ネジ部に付着物があると、調理中にホルダーナットがゆるむことがあります。 ホルダーナットがゆるんだ状態で、カッターAssyを持った際、部品が外れて落下 による、ケガの原因になります。



お手入れのときは、カッターAssyを洗浄液の入ったコンテナやシンクなどに、漬けたままにしておかないこと

泡でカッターAssyの刃が見えなくなり、誤って刃の部分に触れると、ケガの原因になります。

お願い

カッターAssy の各部品の洗浄は速やかにおこない、洗浄液や水、お湯に漬け置きしないでください。

漬け置きをしますと、金属部分が錆びる恐れがあります。

1. カッターAssyを分解してください

カッターAssyを洗浄は、必ず分解してから洗浄してください。 「カッターAssyの分解方法」(34ページ)を参照してください。

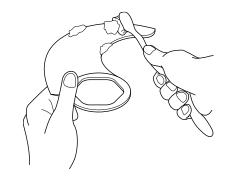
2. 水または温水で、カッターAssyの各部品をすすぎ洗いして、付着した食材を洗い流してください

3. カッターAssyの各部品を洗浄してください

コンテナやシンクにぬるま湯を入れ、定められた使用濃度の分量の除菌洗浄剤を入れて溶かしてください。

除菌洗浄剤を入れたぬるま湯の中で、布かスポンジを用いてきれいに洗ってください。 ※ 硬いタワシなどでこすると、傷が付きますので布かスポンジで洗ってください。

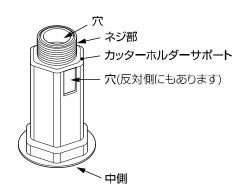
カッターAssyの各部品は、お手持ちのブラシなどを使用してきれいに洗浄してください。



ホルダーナットのネジ部分や穴(2箇所)、ホルダーナットの中側に付着した食材は、残らないように手持ちのブラシなどを使って、きれいに洗浄してください

カッターホルダーサポートのネジ部分や各穴、 カッターホルダーサポートの中側に付着した 食材は、残らないように手持ちのブラシなどを 使って、きれいに洗浄してください





- 4. 洗浄した各部品をきれいな水または温水で、洗剤成分が残らないように、充分すすぎ洗いをしてください
- 5. 各部品は、速やかに除菌済みのきれいな乾いた布などで水分を拭き取り、充分空気乾燥させてください
- 6. 乾燥した各部品にアルコール除菌剤をスプレーしてください
- 7. 洗浄した各部品をきれいな水または温水で、洗剤成分が残らないように、充分するぎ洗いをしてください

故障の診断と手当

故障かなと思ったら

故障かなと思われ修理を依頼する前に、次の項目を確認してください。

症状が改善されないときや「手当」の欄に「お買上げ店へ連絡してください。」と記載されている場合は、本機の停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にして、早急にお買上げ店へ連絡してください。

ご連絡の場合は、本機の型式名、機番、お買上げ日、故障状況(できるだけ詳しく)をお知らせください。

状 態	確認 / 症状	手 当
	本機専用ブレーカーが 『OFF(切)』になっていません か?	本機専用ブレーカーを『ON(入)』にしてください。
	容器は、正しくセットされていますか?	容器を正しくセットしてください。
高速連続調理スイッチ「 ^① 」 (緑色)またはパルススイッ チ「 ^⑩ 」(黒色)を押しても動 作しない。	容器蓋は、正しくセットされていますか?	容器蓋を正しくセットしてください。
	本機は、調理スタンバイモードに なっていますか? タイマー表示ディスプレイに 「0.00」または設定した時間が 表示されていますか?	低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を押して調理スタンバイモードにしてください。調理スタンバイモードになると、タイマー表示ディスプレイに「0.00」が表示され調理可能状態になります。
	停電ではありませんか?	通電するのを待ってください。
	粘度の高い食材を調理していませんか?	停止スイッチ「◎」(赤色)を押して、 機械を止め、本機専用ブレーカーを 『OFF(切)』にして、時間を置いてか
	食材の量が、多すぎではありませ んか?	ら再度本機専用ブレーカーを 『ON(入)』にしてください。
本機専用ブレーカーを 『ON(入)』にした後、低速 連続調理スイッチ「①」(緑 色)を押してもタイマー表示 ディスプレイに「0.00」ま たは設定した時間が表示さ れない。	停電ではありませんか?	通電するのを待ってください。
	タイマーを無効化していません か?	タイマーを無効化にしていると、タイマー表示ディスプレイには何も表示されません。

状 態	確認 / 症状	手 当
調理中に本機が止まった。 (タイマー機能を使用した調理も含む)	調理開始から約9分以上経って	本機は、調理時間が約9分を経過する と自動で停止します。
	いませんか?	本機は、タイマー機能で時間を9分以 上設定していても、調理時間が約9分 を経過すると自動で停止します。
	本機の左底面にあるリセットス イッチが飛び出していません か?	本機には、モーター保護装置が付いており、モーターに過負荷がかかった場合、自動的に機械が止まります。モーター保護装置がはたらいて止まったときは、停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、本機専用ブレーカーも『OFF(切)』にしてください。モーターへの過負荷の原因を取り除いてください。容器内の食材の量を少なくしてください。容器内に異物が混入していれば、それを取り除いてください。本機の左底面にある2カ所のリセットスイッチを押し、本機専用ブレーカーを『ON(入)』にしてから、改めて調理をおこなってください。
	本機が、異常に熱くなっていませんか?	本機には、モーター保護装置が付いており、モーターが過熱した場合、自動的に機械が止まります。 モーター保護装置がはたらいて止まったときは、停止スイッチ「⑩」(赤色)を押して機械を止め、本機専用ブレーカーも『OFF(切)』にしてください。モーターへの過負荷の原因を取り除いてください。容器内の食材の量を少なくしてください。容器内の食材の量を少なくしてください。容器内に異物が混入していれば、それを取り除いてください。モーターを30分以上休ませて冷ましてください。モーターが作動できる温度まで冷めますと、ます。本機専用ブレーカーを『ON(入)』にし、低速連続軍・大田のでは、正常に動作すればモーター保護・大田のでは、できる温度を強めてください。

状 態	確認 / 症状	手 当	
	丈夫なところに設置しています か?	水平で平らな場所、丈夫なところに設	
	据え付けが悪く、ガタついていませんか?	置してください。	
本機から異常音が発生する。	食材の量が多すぎではありませ んか?	停止スイッチ「◎」(赤色)を押して、機械を止め、本機専用ブレーカーを「OFF(切)」にして、食材の量を減らしてください。	
	本機に何か触れた状態になって いませんか?	接触しているものを取り除いてください。	
 モーターから異常音が発生	モーター不良の可能性があります。		
する。 回転振動が大きい。 	モーター軸受部の不良の可能性 があります。	お買上げ店へ連絡してください。 	
調理中に停止スイッチ『◎』 (赤色)を押しても回転し続け る。	停止スイッチ「◎」(赤色)の故障 の可能性があります。	お買上げ店へ連絡してください。	
パルススイッチ「⑥」(黒色) による調理で、スイッチから 指を離しても回転し続ける。	パルススイッチ「®」(黒色)の故 障の可能性があります。	お買上げ店へ連絡してください。	
材料が漏れる	材料を入れすぎていませんか?	1 度にたくさんの食材をいれないでく ださい。	
回転ムラがある	_	お買上げ店へ連絡してください。	
漏電遮断器が切れる。	漏電遮断器のレバーの位置が 『OFF(切)』になっていません か?	漏電遮断器が『OFF(切)』に作動した場合には、お買上げ店へ連絡してください。 レバーが『OFF(切)』になっていると漏電している可能性があります。 無理にレバーを『ON(入)』にすると、感電や火災の原因になります。	
電源コードやプラグが異常 に熱くなる。	_	お買上げ店へ連絡してください。	
電源コードを折り曲げると 通電したり、しなかったりす る。	_	お買上げ店へ連絡してください。	

状 態	確認 / 症状	手 当
モーターの回転が不規則で あったり、止まったり、遅か ったりする。	_	お買上げ店へ連絡してください。

タイマー表示ディスプレイのエラーコードについて

タイマー表示ディスプレイにエラーコードが表示されている場合は、下記の項目を確認してください。

症状が改善されないときや「手当」の欄に「お買上げ店へ連絡してください。」と記載されている場合は、本機の停止スイッチ「◎」(赤色)を押して機械を止め、本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にして、早急にお買上げ店へ連絡してください。

ご連絡の際は、本機の型式名、機番、お買上げ日、故障状況(できるだけ詳しく)をお知らせください。

エラーコード	原 因	手 当
C1A	本機専用ブレーカーを『OFF(切)』に した後、低速連続調理スイッチ「①」 (緑色)を押すと表示されます。	故障ではありません。
E01	電源設備の電圧、または周波数の不良	本機専用ブレーカーを 1 度『OFF(切)』にし、 再度『ON(入)』にしてください。
E02	電源設備の周波数の不良	
E03	内部の配線、または基板の不具合	お買上げ店へ連絡してください。
E04	内部の配線、または基板の不具合	
E06	本体部が熱くなっていませんか?	本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にし、本体が冷めるのを待ってください。本体下部にある通気口がものなどで塞がれている場合は取り除いてください。
E07	基板の不具合	大田 しばた かまぬし オノギナい
E08	スイッチの不具合	お買上げ店へ連絡してください。
E09	本体部が熱くなっていませんか?	本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にし、本体が冷めるのを待ってください。本体下部にある通気口がものなどで塞がれている場合は取り除いてください。
E10	停止スイッチ「◎」(赤色)を押しながら、低速連続調理スイッチ「①」(緑色)を押した。タイマー表示ディスプレイの表示を消灯(無効化)する際に表示されます。	停止スイッチ「◎」(赤色)から指をはなしてください。 症状が改善されないときは、お買上げ店へ連絡してください。
Ell	本体から容器が取り外されている状態で、いずれかの調理スイッチを押した。 (連続調理スイッチを長押しすると 「E12」の表示に変わる。)	本体に容器、容器蓋をしっかりと取り付けてください。

エラーコード	原因	手 当
E16	タイマー機能の動作不良	本機専用ブレーカーを 1 度『OFF(切)』にし、 再度『ON(入)』にしてください。 症状が改善されないときは、お買上げ店へ連 絡してください。
E25	モーター軸のオイルシール交換時期 のお知らせ	お買上げ店へ連絡してください。
E26	電源設備への接続が間違っている。 (モーターが逆回転する状態)	本機専用ブレーカーを『OFF(切)』にして配 線を正しく接続し直してください。 11ページを参照してください。

年に1~2回の点検

電源プラグの点検(電源プラグ使用の場合)

次の項目を点検してください。

電源プラグが、専用のコンセントに差し込まれていますか?

他の機器との共用を中止し、専用のコンセントを用意してください。

電源プラグや電源コードに異常な発熱や破損、重いものが乗ったり、挟み込まれていませんか?

異常の場合は、すぐにお買上げ店へ修理を依頼してください。

電源プラグの刃と刃の取り付け面、コンセントにほこりがついていませんか?

ほこりがついている場合は清掃して取り払ってください。

アース線の点検

アース線が切れたり接続部が緩んでいませんか? 異常の場合は電気工事業者に修理を依頼してください。

仕様

	品 名	ブリクサー 【ロボクープ】	
	型 式	BLIXER-7	
外形寸法幅 280・奥行 328・高さ 570mm (突起取手を含む 奥行 365mm)			
電 源 三相 200V 50 / 60Hz		三相 200V 50 / 60Hz	
	電 流	6.5 A(9分定格)	
	消費電力	1.8 kW (50Hz) / 2.2 kW (60Hz)	
安全装置 蓋安全装置(ブレーキ装置付)、モーター保護装置、リセットスイ		蓋安全装置(ブレーキ装置付)、モーター保護装置、リセットスイッチ	
I I□I ₽⊼ 250 I		低速:1,500r.p.m. 、高速:3,000r.p.m. (50Hz)【無負荷時】 低速:1,800r.p.m. 、高速:3,600r.p.m. (60Hz)【無負荷時】	
	本 体	アルミニウム(上部)、プラスチック(下部)	
材	容 器	ステンレス SUS304(内径φ230・深さ198mm)	
質	容器蓋	トライタン(スクレーパーアームAssy、蓋パッキン付)	
	カッター	ステンレス、ポリアミド	
	容器容量 7.5 L		
液体処理容量 4.0 L (低速連続調理時)		4.0 L (低速連続調理時)	
質 量 21.6 kg(本体:18.2 kg + 容器、容器蓋、ブリクサー刃カッター		21.6 kg(本体:18.2 kg + 容器、容器蓋、ブリクサー刃カッター:3.4 kg)	
電源コード 長さ:2.5m 4心			

お願い

本機では、85℃を超えている熱い食材や、調理中に85℃を超える食材は調理しないでください。

樹脂の部品が変形したり、変色したりする原因になります。

※上記の仕様は、品質向上のため予告なしに変更されることがありますのでご了承ください。

梱包内容一覧

パッケージには、次のものが入っています。足りない場合は、お買上げ店へ連絡してください。

本体(モーター部)	
容器(容器蓋、ハンドル、スクレーパーアームAssy、ブリクサー刃カッター付) 1 個	
FMI除菌洗浄剤(90g) ····································	
取扱説明書(本書)	
保証書	

保証書(別添付)について

保証書の内容をよくお読みのうえ、必要事項を必ずご記入ください。

保証書から返信ハガキを切取っていただき、保証書は紛失にご注意され、お客様にて大切 に保管してください。

返信八ガキは商品ご購入後、1か月以内にご返信ください。

消耗部品

本商品の消耗部品は以下のものになります。

容器	ブリクサー刃カッター
容器蓋	スクレーパーアーム
ハンドル	容器スクレーパー
蓋スクレーパー	オイルシール
シャフトシール	パッキン類
オプション部品	付属の洗浄剤

補修用性能部品の保有期間

補修用性能部品とは、本商品の性能を維持するために必要な部品です。

弊社では、本商品の補修用性能部品の保有期間は、販売打ち切り後8年とさせていただいております。

株式会社エフ・エム・アイ

```
東京:〒106-0041東京都港区麻布台1丁目11番9号 Tel.03(5561)6521
大阪:〒538-0044大阪市鶴見区放出東3丁目11番31号 Tel.06(6969)9393
営業所 札幌:〒003-0002 札幌市白石区東札幌二条5丁目4番1号 Tel.011(813)8651
仙台:〒983-0039 仙台市宮城野区新田東1丁目15番6号 Tel.02(238)5711
名古屋:〒454-0822名古屋市中川区四女子町2丁目46番地 Tel.052(361)7891
広島:〒731-0102 広島市安佐南区川内6丁目43番9号 Tel.082(876)1855
福岡:〒812-0839福岡市博多区那珂1丁目30番21号 Tel.092(481)2931
出張所 北陸:〒921-8027金沢市神田1丁目23番11号 Tel.076(243)7810
沖縄:〒901-2214宜野湾市我如古1丁目54番21号 Tel.098(870)2766
サービス
ステーション 盛岡:〒020-0124盛岡市厨川4丁目14番5号 Tel.098(648)5390
四国:〒768-0012香川県観音寺市植田町155番地1 Tel.0875(57)5161
鹿児島:〒890-0073鹿児島市宇宿1丁目15番8号 Tel.099(263)8281
東京修理工場:〒130-0011東京郡場田区石原4丁目35番7号 Tel.03(5819)1280
```

ホームページ http://www.fmi.co.jp/